

事業計画書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

公益財団法人損保ジャパン環境財団

2013年度の事業は基本的にはこれまでの取り組みを継続すると同時に、それぞれの事業内容についての検証・再構築を進め、より実施効果の高い環境分野の人材育成を推進します。

「損保ジャパンCSOラーニング制度」は2012年度までの累計で700名以上の卒業生を輩出しました。制度開始から14年目を迎える今期も、インターンシップでの学びを通じ参加する学生が自らの課題に真摯に向き合い克服すると同時に、長所を伸ばし着実な成長の機会とするよう、質の変化に対応した支援・指導を行って参ります。また受入先CSOとのより強固な連携をはかり実効性を高めます。

「市民のための環境公開講座」は2012年度より実施会場を従来の新宿本社ビルだけでなく日本橋ビルでも開催しており、新たな受講者の獲得をめざし2013年度も継続して開催します。

「環境保全プロジェクト助成」につきましては、全国各地の環境団体の有効な取り組みに対する支援として引き続き実施します。

「学術研究助成」につきましても、若き研究者育成の基盤づくりとして、継続して取組んで参ります。

「企業と環境問題研究会」におきましては、研究テーマ「気候変動への『適応』～主として自然災害リスクへの対応～」に関する最終年度を迎えます。これまでの研究成果をまとめ、発表することを予定しています。

(1) 環境保全活動に活躍する人材の育成支援（事業予算計2,800万円）

① 損保ジャパンCSOラーニング制度（予算2,100万円）

全体の実施規模は2012年度とほぼ同水準の約40団体、合計60名程度を予定しています。

② CSOによる人材育成事業等への助成（予算100万円）

CSOが主催する人材育成事業等に対して助成します。

(2) 環境保全に関する情報の収集及び提供並びに啓発普及

（事業予算計1,650万円）

① 「市民のための環境公開講座」（予算1,000万円）

2013年度は通年講座9回、特別講座2回のほか、市民講座20周年記念シンポジウムの開催を予定しています。通年講座については昨年度に改定した方向性を継続し、多彩な講師と多様な講義スタイルを提供

することで参加者の満足度の向上を目指します。また、女性や若者といった新たな参加者層の開拓に工夫をして取り組みます。

通年講座のテーマは「環境とエネルギー・技術」、「世界と日本の国立公園、および三陸復興公園」、他を予定し、3パート合計9回開催します。また、特別講座は、3年目を迎える若手社会人・大学生向けワークショップを登壇者の特性を変えて実施します。野外での特別講座は、昨年参加者の満足度が高かった、東京の水路を船でめぐり都市の歴史と環境について学ぶツアーを引き続き実施します。

20周年記念シンポジウムは講座開始から20年間の社会や価値観の変化を振り返り、環境問題をより大きな視点から捉える機会として、下半期に開催する予定です。

②各種シンポジウム・研究会への協賛（予算100万円）

環境問題の普及・啓発に関し実施する各種シンポジウム・研究会への協賛を行います。

(3) 環境保全のための活動に従事する団体及び個人に対する助成

(事業予算計350万円)

①環境保全プロジェクト助成（予算250万円）

昨年度に引き続き同規模にて実施します。環境保全活動に現場で取り組むNPO等の団体を対象とし、1団体あたり上限20万円を助成します。全国の優れた環境保全活動を支援します。

(4) 環境保全に係わる学術研究に対する助成

(事業予算計680万円)

①学術研究助成（予算180万円）

昨年度に引き続き公募し、人文・社会科学系の観点から環境問題に係わる若手研究者に、博士号取得論文作成のための費用（1研究者30万円を上限）を助成します。

②企業と環境問題研究会（予算400万円）

研究会「気候変動への『適応』～主として自然災害リスクへの対応～」を開催し、最終年度としてこれまでの取組みと研究成果を広める機会を設けると同時に、書籍の出版等で世の中に発信します。

(5) 資金運用計画

財団の基本財産については、資金運用規程に則り、投資有価証券の継続保有および定期預金の自動継続により運用します。なお、財団が保有している債券は基本財産で、すべて満期保有を目的としています。平成25年度には次の1件が

償還を迎えます。資金運用規程に従い、基本的には安全性・確実性を考慮した債券を購入します。

「第1回株式会社セブン&アイホールディングス無担保社債 額面1億円

償還期限 平成25年6月20日」

また、運用財産（基本財産以外の財産）は、安全性と流動性を考慮した銀行預金（定期預金、普通預金）および証券口座で運用します。